



こんどう ゆたか

近藤 豊

実行委員長

Yutaka KONDO

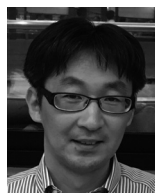
名古屋大学 大学院医学系研究科
腫瘍生物学 教授

【プロフィール】

名古屋市立大学医学部卒。9年間内科医として一般診療に携わったが、難治性のがんは根治できない現実を目の当たりにして、米国留学を機に基礎研究の道に進む決意をした。愛知県がんセンター研究所、名古屋市立大学を経て2017年より現職。研究領域はエピゲノムによるDNAの調節と制御機構。夢はがんに対する治療薬の開発。飲み会では、自分の体の中でほとんど機能しないALDH2の酵素活性は活性化できないのかを考えている。趣味はジョギングと楽器演奏。

【若手研究者への一言】

ひとつの論文作成に必要とされるデータの量は益々増えています。また新しい発見の多くは、新しい技術の導入によって得られます。こうした問題を解決するためには共同研究は有効な手段です。本講習会を通じて沢山のひとと知り合い、ぜひ共同研究のネットワークを拡げてください。



せいみや ひろゆき

清宮 啓之

Hiroyuki SEIMIYA

公益財団法人がん研究会
がん化学療法センター
分子生物治療研究部・部長

【プロフィール】

埼玉県出身。1990年東大薬学部卒、1995年同大学院薬学系研究科博士課程修了。癌研、米国ニューヨーク大を経て2005年より現職。東大新領域、明治薬科大客員教授（連携大学院講座）、理研創薬・医療技術基盤プログラム・プロジェクトリーダーを兼務。専門領域はがん分子標的創薬およびテロメア生物学。趣味は温泉・ジャズ、好きな言葉は「信頼」。

【若手研究者への一言】

これだけは誰にも負けない！という自己の強み、得意技を見つけて邁進して下さい。



ふたくち みつる

二口 充

Mitsuru FUTAKUCHI

山形大学 医学部 病理学講座 教授

【プロフィール】

専門領域：病理学・分子腫瘍学

趣味：バイク（大型）、鉄道模型（HO）、ラグビー（観戦）、ワイン（勉強中）

【若手研究者への一言】

忌憚ない意見を言ってくれる友人を他分野で数多くみつめるように頑張ってください。



たかまつ まなぶ

高松 学

Manabu TAKAMATSU

公益財団法人がん研究会がん研究所
病理部 主任研究員

【プロフィール】

2008年 岐阜大学医学部卒

2014年 岐阜大学大学院腫瘍病理学 大学院修了
大学院時代は病理学研鑽と同時に動物モデルで大腸癌の研究を実施。

2014年～ がん研病理部に所属し、消化管および肝胆膵病理の診断を専門とし、デジタル病理画像解析に関する研究を行っている。

2022年～ 先端モデル動物支援プラットフォーム病理形態解析支援班員

【若手研究者への一言】

とことん科学を追求し、妥協のない結果を目指してください。



みやかわ つよし
宮川 剛
Tsuyoshi MIYAKAWA

藤田医科大学 医科学研究センター
システム医科学研究部門 教授

【プロフィール】

1993 年東大文学部卒、1997 年同大学院人文社会系研究科修了。博士（心理学）。理研 BSI、米国 NIH、バンダービルト大学、MIT を経て、2003 年京大・助教授。2007 年より現職。専門領域は行動神経科学、精神医学。趣味はランニング。

【若手研究者への一言】

What is time? What is space? くらいの疑問からスタートしてみよう！



いで そういちろう
井手 聡一郎
Soichiro IDE

公益財団法人東京都医学総合研究所
依存性物質プロジェクト
副参事研究員

【プロフィール】

1999 年京大薬学部卒、2004 年同薬学研究院終了。博士（薬学）。広島国際大学、北海道大学を経て、2015 年より現職。専門領域は行動薬理学。趣味は読書、油彩、競馬。

【若手研究者への一言】

「若手」の期間はあっという間に過ぎ去ります。若いうちから守りに入らず、チャレンジング精神を持って、色々なことに興味を持って下さい。



たはら ひでとし
田原 栄俊
Hidetoshi TAHARA

広島大学・副学長
(スタートアップエコシステム担当)
大学院医系科学研究科・
細胞分子生物学研究室・教授

【プロフィール】

広島市出身 1989 年、東京薬科大学薬学部製薬学科卒業、広島大学で、博士（薬学）を取得、2006 年から、広島大学 細胞分子生物学研究室 教授として、老化およびがんの研究を推進している。世界オンリーワン技術のテロメア G テール長の開発に成功。細胞老化に関わるマイクロ RNA を同定して、抗がん剤としての核酸医薬の応用を進めている。2021 年から広島大学 副学長（産学連携担当）に就任して、様々な産学連携プロジェクトを立案している。2012 年に株式会社ミルテルを起業（大学発ベンチャー）。2021 年には、新たに創薬ベンチャー 株式会社 PURMX Therapeutics（パームエックス・セラピューティックス）を設立し、アスベストで発症する悪性胸膜中皮腫に対する核酸医薬治療薬を開発し、ヒトでのファーストインヒューマン医師主導治験を開始している。

【若手へのメッセージ】

何事にもチャレンジ！ オリジナリティーと独創性を見いだす研究を目指してください。独自技術・研究は、持続的な研究を助けます。
世界の社会課題を解決するのは、君たちだ！



さわもと かずのぶ
澤本和延
Kazunobu SAWAMOTO

名古屋市立大学大学院医学研究科・
教授

【プロフィール】

北海道出身、1990 年明大農学部卒、1996 年東大大学院医学系研究科博士課程修了。筑波大、阪大、UCSF、慶大を経て 2007 年より現職。2021 年より名市大医学研究科脳神経科学研究所長を兼務。2016 年より生理研客員教授、2022 年より豊橋技科大客員教授を兼任。

【若手研究者への一言】

私はこれまで多くの方々からの支援を受け、ショウジョウバエ、マウス、ラット、魚、サル、ブタなど様々なモデル動物を用いて、神経系の発生・再生の研究をしてきました。この講習会では、皆様との交流を通じて、若手研究者の育成に少しでも貢献することができれば幸いです。



まるやま れお

丸山 玲緒

Reo MARUYAMA

公益財団法人がん研究会 がん研究所
がんエビゲノム研究部 部長

【プロフィール】

2002年札幌医大卒、2007年同大学院修了。Dana-Farber Cancer Institute、札幌医大分子生物学講座を経て、2017年より現職。がんの多様性の本質に迫りたいと思い研究している。趣味は蕎麦前、せんべろ、町中華。

【若手研究者への一言】

努力は夢中にかなわない。夢中になれるものを探し出して、毎日をワクワクする時間で満たしましょう！



かねこ なおこ

金子 奈穂子

Naoko KANEKO

同志社大学大学院脳科学研究科
神経再生機構部門 教授

【プロフィール】

精神科の臨床医を経て、基礎研究者になりました。成熟した脳内で新しく生まれる神経細胞が傷害後の脳内で分化・成熟して、神経機能を再生する過程のメカニズムを研究しています。2022年より現職にて研究室を運営しています。実験が大好きで、今も研究室スタッフ（准教授・助教）、大学院生や学部生と一緒に傷害モデルの作製や組織解析、ライブイメージング、電気生理学・行動学を用いた神経機能解析などに取り組んでいます。最近は老眼との闘いです。趣味は猫と遊ぶことと堤防からの魚釣りです。

【若手研究者への一言】

研究生生活はとても楽しいですが、うまく行かない苦しい時期も必ずあります。そんな時に、弱音を吐いたり気分転換したりできる相手や場所を持って、ストレスを受け流せる柔軟さが大事だな・・・と思っています。



おおにし のぶゆき

大西 伸幸

Nobuyuki ONISHI

昭和医科大学 臨床薬理研究所 臨床
腫瘍診断学部門 講師
慶應義塾大学 医学部
形成外科学教室 特任講師

【プロフィール】

2002年 近畿大学理工学部（岩森正男研究室）卒業、2008年 神戸大学大学院医学研究科（南康博研究室、日本学術振興会特別研究員DC1）修了、同年より慶應義塾大学医学部（佐谷秀行研究室）にて特任助教、2017年より株式会社島津製作所基盤技術研究所にて研究員、2022年より現職。発がん・悪性化メカニズムの解明を目指したマウス発がんモデルの構築及び解析ならびに、腫瘍浸潤T細胞制御因子の機能解析を行う。講習会への参加：2007、2011、2013～2025年。

【若手研究者への一言】

「少年老い易く、学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」。私はこれまでに参加してきた本講習会で、尊敬する諸先輩方や多くの友人、様々な研究と出逢うことができ、現在の私の糧となっています。この講習会が皆さんにとっても有意義な機会となることを願いつつ、皆さんと交流できる時間を楽しみにしています。



ひらた えいしゅう

平田 英周

Eishu HIRATA

金沢大学がん進展制御研究所
腫瘍細胞生物学研究分野 教授

【プロフィール】

2010年3月 京都大学大学院医学研究科修了。京都大学大学院生命科学研究所助教を経て、2011年8月よりCancer Research UK London Research Institute（2015年4月 Francis-Crick Institute に改組）研究員。2015年8月 金沢医科大学病理学I講師。2018年9月に現在の研究室を開設し、2024年8月より教授。金沢大学ナノ生命科学研究所教授兼任。日本癌学会評議員、日本脳神経外科学会専門医、日本頭痛学会認定頭痛専門医、金沢医科大学客員教授、金沢脳神経外科病院非常勤医師。

【若手研究者への一言】

必死で頑張った人にしか見えない景色があります。勝って見える景色、負けて見える景色、どちらにも価値があります。



うえさか なおふみ

上阪 直史
Naofumi UESAKA

東京科学大学 大学院医歯学総合研究科
認知神経生物学分野 教授

【プロフィール】

阪大基礎工学研究科修了、東大医学系研究科助教・講師、ドイツ・アーヘン工科大学での留学研究。発達期の神経回路形成や自発的活動のメカニズムを中心に、機能的脳構築の解明を目指している。趣味はマラソンで、学会や出張先でも朝ランを欠かさない。

【若手研究者への一言】

うまくいかない時こそ、面白いことが潜んでいるかもしれません。悩みながらも、楽しむ気持ちは忘れずにいきましょう。



きどや ひろやす

木戸屋 浩康
Hiroyasu KIDOYA

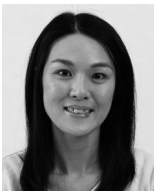
福井大学学術研究院 医学系部門
血管統御学分野 教授

【プロフィール】

2008年に大阪大学大学院医学系研究科を修了後に大阪大学微生物病研究所にて特別研究員(PD)、助教、さきがけ研究員、准教授を経て、2021年に福井大学学術研究院医学系部門の教授に就任。大学院のころから一貫して血管生物学を専門として、発生、再生、がん、感染症、老化など様々な生命現象における血管機能の解析を行ってきました。趣味はジョギングと剣道です。

【若手研究者への一言】

僕の初参加(がん若手)は2007年で大学院生でした。まさかPIとして参加する日が来るとは思いもせず、研究人生は予測不能です。若手の皆さんも将来など悩みすぎず、目の前の研究を楽しめれば自然と道は拓けると思います！



さだ あいこ

佐田 亜衣子
Aiko SADA

九州大学生体防御医学研究所
皮膚再生老化学分野・教授

【プロフィール】

2011年総合研究大学院大学遺伝学専攻修了、博士(理学)取得。2011年米国コーネル大学博士研究員、2016年筑波大学生存ダイナミクス研究センター助教。2019年10月より熊本大学国際先端医学研究機構にて独立。2023年7月より現職。皮膚再生と老化を目指して幹細胞研究をやっています。趣味は娘と一緒にハンドメイドをすること。昔はチャリ部で放浪していました。

【若手研究者へのメッセージ】

私は基礎研究者なので、新規性、独創性、重要性、実現可能性(つまり、今までやられていないことの中で、学術的・社会的にやる価値があって、かつ、自分だからこそのこと)について、常に模索しています。人と人との繋がりを大事にして、これ！というライフワークを探してみてください。皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。



たけだ はるな

武田 はるな
Haruna TAKEDA

国立研究開発法人国立がん研究センター
分子遺伝学ユニット ユニット長

【プロフィール】

2001年東大薬学部卒業。京都大学医学研究科在籍時は、実験病理学を中心とした解析手法を身につけ、それが今でも生きています。海外留学時に、Sleeping Beautyと呼ばれるトランスポゾンを利用したがん関連遺伝子生体内スクリーニングの手法を学び、日本でも引き続き使っていますが、現在、この手法を日本で使用しているのは当ラボのみです。ユニークな手法によるがん研究を進めています。趣味は、音楽鑑賞と旅行。

【若手研究者へ】

新しいことに挑戦することを恐れなください。一見回り道のように見えても、新たなアプローチをとることで思いがけない結果が得られることがあります。